社会包摂型公園管理の社会実験　レポート
in 山野井公園

小規模公園が、地域交流・世代間交流・新旧住民の交流・福祉増進・環境教育・防災などの社会包摂的機能を持った拠点となるために、自主的管理・運営方法をどうすれば良いのかを「山野井公園まつり」の実施をすることで探ってみた。

火を使うことは、災害時の炊出しの練習にもなる。

高校生以上は記述式、中学生以下は、シール型簡易アンケート

学年 / 校区	小学 1・2年生	小学 3・4年生	小学 5・6
城西	1	1	
城乾	6	4 5	
城北	3		
船場		1 1	
他の地域	2	1 2	2
	12	7 8	2

公園利用アンケート＆おやつふるまい

枝葉の公園内循環＆地域のお店

剪定枝を小さくして、グランドカバーにしたり、草・葉をコンポストに入れてたい肥を作ったりする、小さな循環づくり。

昔遊び

伝統的なお正月遊び等を通して、多世代が交流できる場を提供した。初めて遊ぶ子どもと、懐かしく遊ぶ大人が一緒の時間を過ごす。

地球環境を守るために、ゴミを出さない工夫

飲食を伴うイベントを行うと、必ずゴミが出る。ゴミ山の存在がイベント後の達成感を妨げる。そこで、リユース食器を使用したり、割りばしをロケットストーブの材料にして、甘酒を温めたりし、ゴミ減量に取り組んだ。

リユース食器の回収の様子。割り箸は燃やして燃料に

出たゴミの総量。ほとんどが焼き芋のゴミ。

来場者は約100名。未就学児から高齢の方まで、多世代の方が多様なことをして過ごす3時間となった。従来通りの地域のイベントでは、自治会が全てを担っており、継続への懸念があった。今回、社会包摂機能を持った実施にすることで、各役割を得意とする団体や地域の商店等も積極的に関わることができ、労力を増やすことなく、自治会イベントの枠組みを広げることができた。これは、城の西の潜在能力（まぐま）があると言える。今後、社会実験をつうじて公園の管理・運営の新しいかたちを創造していきたい。